

1 貧血とは？

貧血は、赤血球の中の「ヘモグロビン」の濃度が基準値以下に低下した状態をいいます。ヘモグロビンは、鉄を含むヘムという色素とグロビンという蛋白質からできていて、体中に酸素を運ぶ働きをしています。ヘモグロビン濃度が成人男性では13g/dL未満、成人女性と小児（6～14歳）では12g/dL未満、妊婦と幼児（6カ月～6歳）では11g/dL未満の状態が貧血であると定義されています。

検査のはなし vol.13

専門医が解説する 病気の検査…12

「貧血」

日本臨床検査専門医会 一色美和

2 貧血の症状は？

貧血になると、全身の組織の酸素が欠乏し、頭痛、めまい、倦怠感、易疲労感、息切れ、動悸・頻脈など、さまざまな症状が見られます。また、赤血球量の減少により、眼瞼結膜蒼白、顔面蒼白（黄色人種ではしばしば黄色っぽく見える）などが生じます。なお、ヘモグロビン7g/dL以下になると、ほとんどの患者が自覚症状を認めますが、慢性に経過した貧血の場合は、短時間に生じる貧血（大量出血など）に比べて症状が強く出ないので注意が必要です。

3 貧血の種類は？

貧血で最も多いのは、鉄不足により生じる鉄欠乏性貧血です。鉄欠乏性貧血の原因としては、食生活の偏りによる鉄摂取量の減少、痔核・胃がん・大腸がんなどからの出血、閉経前の女性では、子宮筋腫や子宮腺筋症などによる過多月経などがあげられます。なお、体内が鉄欠乏状態でなくても、慢性炎症性疾患では炎症物質（炎症性サイトカイン）の作用で造血に利用できる鉄が減少し、貧血となります。そのほか、ビタミンB₁₂や葉酸の不足により生じる巨赤芽球性貧血、骨髄の造血障害を起こす白血病や再生不良性貧血など、さまざまな疾患が貧血を引き起こします。

4 貧血と臨床検査

ヘモグロビン濃度で貧血と診断された場合、赤血球のサイズを反映する検査値であるMCV（平均赤血球容積）を確認します。鉄欠乏性貧血や慢性炎症性疾患ではMCVが小さくなるのがほとんどです。一方、巨赤芽球性貧血ではMCVが大きくなります。

鉄欠乏性貧血は、他の貧血の原因となる疾患に合併することも少なくないため、貧血の原因を探るスクリーニング検査の際には、必ず血清鉄とフェリチンを測定します。フェリチンは、肝臓・脾臓などに蓄えられている貯蔵鉄の指標となります。

鉄欠乏性貧血では、月経過多を起こす婦人科疾患や消化器からの出血を起こす基礎疾患が隠れている場合もあるため、婦人科の精密検査や胃・大腸内視鏡検査を受けると安心です。

